(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B1)　(11)特許番号
特許第6518865号
(P6518865)
(45)発行日　令和1年5月22日(2019.5.22)　(24)登録日　平成31年4月26日(2019.4.26)

(51)Int.Cl.			F I		
A61F	5/44	(2006.01)	A61F	5/44	H
A61G	7/02	(2006.01)	A61F	5/44	D
A61F	13/495	(2006.01)	A61G	7/02	
			A61F	13/495	

請求項の数 3　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願2018-205462(P2018-205462)
(22)出願日　平成30年10月31日(2018.10.31)
審査請求日　平成30年10月31日(2018.10.31)

早期審査対象出願

(73)特許権者　592254917
木下　輝雄
東京都港区高輪２－１－１１－３０４
(72)発明者　木下　輝雄
東京都港区高輪２－１－１１－３０４

審査官　山口　賢一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】介護用品とマットレスの併用による介護システム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

分割マットレスと便受容袋と、前身頃と後身頃と股下部からなるおむつを構成要素とし、上体部、左右の二等分割した腰部と下肢部の四分割マットレスの左右の前記等分割体の両方または片方をマットレスの横方向に移動してマットレスにより形成する手作業空間に、被介護者に装着した開口部付き前記おむつの股下部を外し、使用前の便受容袋を肛門周辺に接着後、外した前記股下部の復帰の際に該股下の開口部を通して前記便受容袋を前記手作業空間に置いた後、該手作業空間において前記分割体が便受容袋を挟閉しない程度に元の位置に戻すことを特徴とする介護システム。

【請求項２】

有底円筒袋体と環状柔軟接合薄面体でなる非透水性の便受容袋であって、その直径が前記おむつの略円形開口の直径に略等しい前記円筒袋体の上周に、該円筒袋体の直径の略1.5倍の直径の接着性の前記環状柔軟接合面体がフランジ状に非透水に接合し、開口から底部までの長さが前記手作業空間の深さ以上であることを特徴とする請求項１に記載の便受容袋。

【請求項３】

前記便受容袋にスパイラル状またはヘリカル状の弾性変形能スペーサを内部に備えることを特徴とする請求項２に記載のスペーサ式便受容袋。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、介護用品であるおむつと便受容袋と分割マットレスとで構成する高齢者用の介護システムである。
【背景技術】
【０００２】
高齢者介護において介護用のおむつが広く実用されているが、介護時の介護者の労力と精神的負担と、おむつゴミの軽減が喫緊に要請されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】実用新案登録第３１８４５２０号
【特許文献２】再公表Ｗ２０１６－１５７４９６
【特許文献３】公開実用新案公報昭５７（１９８２）―１９３８２８
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
本発明は、大きな社会問題となりつつある、高齢者おむつ介護における介護者と被介護者の労力と精神的負担およびおむつゴミの軽減を図ることを目的とし、分割マットレスと介護用おむつと便受容袋とで構成する介護システムを提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
介護システムは、分割マットレスと便受容袋と、前身頃と後身頃と股下部からなるおむつを構成要素とし、上体部、左右の二等分割した腰部と下肢部の四分割マットレスの左右の前記等分割体の両方または片方をマットレスの横方向に移動してマットレスにより形成する手作業空間に、被介護者に装着した開口部付き前記おむつの股下部を外し、使用前の便受容袋を肛門周辺に接着後、外した前記股下部の復帰の際に該股下の開口部を通して前記便受容袋を前記手作業空間に置いた後、該手作業空間において前記分割体が便受容袋を挟閉しない程度に元の位置に戻す介護システムである。
【０００６】
便受容袋は、有底円筒袋体と環状柔軟接合薄面体でなる非透水性の便受容袋であって、その直径が前記おむつの略円形開口の直径に略等しい前記円筒袋体の上周に、該円筒袋体の直径の略1.5倍の直径の接着性の前記環状柔軟接合面体がフランジ状に非透水に接合した、開口から底部までの長さが前記手作業空間の深さ以上である便受容袋であり、またスペーサ式便受容袋は、前記便受容袋にスパイラル状またはヘリカル状の弾性変形能スペーサを内部に備えるスペーサ式便受容袋である。
【発明の効果】
【０００７】
本発明の、便受容袋と既存の介護用おむつと四分割マットレスを構成要素とする介護システムは、被介護者の臀部に対応するマットレスの部分に形成した手作業空間と介護用おむつと併用する便受容袋により排泄後の清浄処理の簡素化を図り、介護者と被介護者両者の肉体的、精神的な負担とおむつゴミを低減し、また一般住宅でもこの介護システムが容易に実施でき、そしてその分割マットレスは健常者の通常寝具として使用も可能である。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】四分割マットレスの斜視図である。（文献３）
【図２】おむつの内側から見た概要展開図である。
【図３】便受容袋の概要斜視図である。

【発明を実施するための形態】
【０００９】
本発明の、分割マットレスと便受容袋とおむつを構成要素とする介護システムを図１、２、３に基づいて説明する。昨今、社会問題化している高齢者おむつ介護における喫緊の問題は、前記のごとく介護者と被介護者の肉体的、精神的な負担の軽減と介護の簡素化による看護時間の短縮であり、特に排泄便の始末の簡素化であり、そしておむつゴミの低減である。
【００１０】
病院や施設で使う機械動力式の介護補助装置や座椅子式簡易便器などを使用しない住宅におけるマットレス上の被介護者におむつの装着は、被介護者の臀部の持ち上げによる、介護者の手の入る空間を確保し、さらに排泄汚れおむつの取外しとその後の清浄作業用のより広い手作業用空間も無く、しかも排泄自体が平面状のマットレス上で行われて、介護者と被介護者両者の負担を大きくするおむつ内に大便汚染の拡大を生じ、また増加するおむつゴミの処理問題が浮上しているのが現状である。
【００１１】
本発明の介護の簡素化とゴミ低減を図る介護システムは、分割マットレス１（図１）とおむつ６（図２）と便受容袋１４（図３）で構成するのである。なお以下の説明は、被介護者が仰向け姿勢の場合である。
【００１２】
介護に必要な前記の手作業空間２は、上体部３、横長腰部の中央で分割した左分割体４Ｌと右分割体４Rと下肢部５の四分割マットレス１（特許文献3）の分割体４L、４Rを左右に少し移動して臀部の下に、例えば略20～30cm四方とマットレスの厚さが略その深さの前記空間として形成されるのである。なおマットレスのベッド上配置はもちろん、床置きでもよい。
【００１３】
おむつと併用する排泄便の入る非透湿性の便受容袋１４は、有底円筒袋体１５と環状柔軟接合薄面体１６でなり、その薄面体が円筒袋体１５の開口端にフランジ状に接合をしており、前記の円筒袋体１５は、その直径が後記するおむつの略円形開口より小さく、　長さが前記手作業空間の深さ以上であり、柔軟性に富む前記の環状柔軟接合薄面体１６は、その外径が前記円筒袋体１５の直径の略２倍ないしそれ以上であり、その内径周が円筒袋体の開口に接合し、かつその内径の中心が前記接合面体１６の外径の中心と例えば略1cmズレており、つまりそのズレ線上のフランジ面である前記環状接合薄面体の幅に最大略2cmの差を生じており、この最大幅部を肛門の下側にして、接合薄面体１６の保護薄フィルムを剥がした接着性の接合薄面体が肛門周辺に接着されて、便受容袋１４が装着されることになる。
【００１４】
前記の分割体移動式の分割マットレス１に形成した手作業空間２を活用する介護プロセスの一例は以下のごとくである。まず、被介護者の指示によりまたは排便の予想時刻以前に余裕をもって、排泄介護に必要な手作業空間２を前記の様に形成し、前記おむつ６（図２）は、腹側の前身頃７と背側の後身頃８が着脱接合して環状一体になり、さらにこれらの両身頃の中央部の間を着脱可能に繋ぐ股下部１０があり、肛門周辺に対応する部分に開口枠とそれに嵌る開口蓋１２でなる略円形ないし長円状の非透水性の開閉式の開口部１３があり、おむつの内側と前記手作業空間２が通じる開口となるのである。
【００１５】
さて、前記おむつ６を装着している被介護者の上で曲げた大腿を多少開いた状態での便受容袋１４の装着は、その既着のおむつの股下部１０を環状一体の前後の身頃から外し、前記接合薄面体１６の開口部の中心を肛門に略対させ、かつ前記の様に受容袋の前記接合薄面体の最大幅部を尾てい骨側つまり下側にして、肛門の周囲皮膚に前記保護フィルムをはがして受容袋を接着し、さらに所定幅の薄軟非透湿性の接着テープを分割した複数片を、接合面体の外縁部に重ねかつ相互に順次ラップして、肛門周辺皮膚にも環状に連続接着し

、つまり前記接合面体は、それ自身と前記の薄軟接着材とにより肛門の周囲部皮膚に接着固定されるのである。

【００１６】

なお、薄軟接着材の連続環状の貼り付けは、前記接合面体の部分的剥離による下痢便の滲出漏出防止のためであり、その剥離の懸念のない場合、部分的な補助的な貼り付けもよい。なお、前記接着テープは、全面に小孔が分布しており連続長期使用による皮膚かぶれを抑制するものである。

【００１７】

そして、先に外した股下部１０の復帰時にその開口部を開き、装着固定した便受容袋をその開口を通して前記手作業空間２に収置して、被介護者への排便対応の準備作業は終わり、前記手作業空間を、左右の分割中間体４Lと４Rを、前記スペーサの入った前記受容袋を挟閉しない程度に元の位置へ戻して、介護態勢が完了するのである。

【００１８】

なお、前記接合面体の肛門周辺への接着以前に前記受容袋の中にスペーサ、例えば内径が前記円筒袋体１５の内径より小さく一定で長さ10～20cmの弾性細線材製スパイラル状弾性変形能スペーサ（図略）の一端を、または一端の直径が前記スパイラル状の直径と略等しく他端で前記円筒袋体の内径に略等しくなるつまり一端から他端へ順次太くなるヘリカル状の前記同様の変形能スペーサ（図略）の小径端を、前記円筒状体の接合薄面体１６より5cm以上離してその中に配置し袋体内にスキマを確保し、排泄物の下方移動を容易にするのもよい。前記袋体部を前記手作業空間に置くので、被介護者の動きに伴う圧迫変形がほとんどなくその機能を失うことはない。

【００１９】

この受容袋装着の後の排便において、排泄物が手作業空間の置かれた前記受容袋中を前記スペーサ効果によっても速やかに下方へ移動し、その受容袋の先端部に順次溜まるので、肛門周辺皮膚や前記接合面材への移動拡散つまり周辺汚れを最小に抑えるのであり、これゆえにおむつゴミの低減になるのである。

【００２０】

そして、排泄後の介護作業は、その手作業空間内の受容袋とおむつを丁寧に外し、肛門周辺の限られた汚れ部分の、介護者の手拭い作業またはその後の小型温水シャワー機と水受器での清浄と温風器での乾燥あり、前記の左右中間体の元への復帰による前記空間の閉鎖と新たなおむつ装着後、被介護者を正常仰臥に整え、そして受容袋などの汚染物やシャワー機と水受器、前記空間内と周辺に及ぶシーツの片付けと清浄、さらにおむつの洗濯であり、介護者は被介護者全体をマットレス上で大きく動かす労苦がなく、簡便な作業ですむのである。

【００２１】

以上の手作業空間利用の新しいおむつ介護システムは、介護者の負担、特に排泄後処理の軽減を図り被介護者の精神的負担も減らせるのであり、病院、介護養護施設はもとより、介護に至る以前より普通寝具として使用できる簡易な構成の前記四分割マットレスにより一般家庭でも穏やかな介護が可能となる。なお被介護者の容態により介護方法は多様に変化することになる。

【００２２】

そして小便の処理方法は、被介護者の尿意表示を受けた介護者がその都度、排泄器官にあてがう採尿具から、パイプ経由により容量のあるタンクに導入し日に少なくとも一度の廃棄をするのが一の方法であり、既存の吸収パッドの方法もよい。

以上が介護用分割マットレスと開口部のあるおむつと便受容袋の構成する介護プロセスの概要である。

【符号の説明】

【００２３】

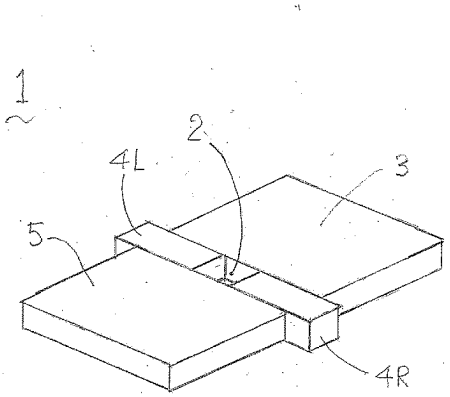
１四分割マットレス、　２手作業空間、　３上体部、

４L左分割体、　４R右分割体、　５下肢部、　６おむつ

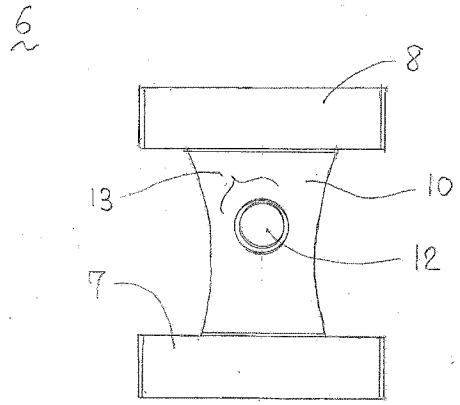
７前身頃、　８後身頃、　１０股下部、　１２開口蓋、
１３開口部、　１４便受容袋、　１５有底円筒袋体、
１６環状柔軟接合薄面体

【要約】
【課題】大きな社会問題となる、おむつ介護における介護者と被介護者の負担軽減とその時間短縮を図る改良されたおむつなどによる介護方法の提供である。
【解決手段】上体部、被介護者の臀部を受ける腰部と下肢部に分かれたおむつ介護用三分割マットレスの前記腰部を等分割した左右の中間体の両方または片方をマットレスの左右幅方向に移動して形成した手作業空間に、併用する前記おむつを介して肛門周辺に接着固定した便受容袋を納め配置する三分割マットレスおむつ介護方法は、介護作業の軽減に寄与し、介護者と非介護者の精神的負担も軽減するのである。なお、前記三分割マットレスは通常の寝具としても使えるのである。
【選択図】　図１

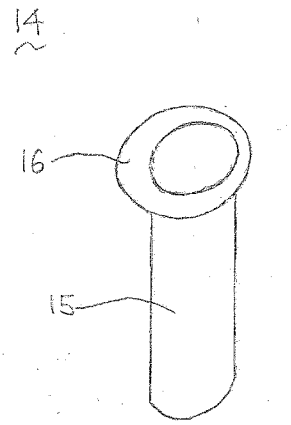
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(56)参考文献　特開２００６－１１５９９１（ＪＰ，Ａ）
特開２０１２－２２８３２０（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－３２７（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０９５８０４（ＪＰ，Ａ）
特開昭５７－０１４３４５（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－１９３８２８（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５４－０７９８１３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６１Ｆ　５／４４
Ａ６１Ｆ　１３／４９５
Ａ６１Ｇ　７／０２
Ａ６１Ｇ　９／００